

人工知能と人間社会に関する懇談会 説明資料

橋本和夫

早稲田大学・研究戦略センター

すでに人工知能学会など様々なところで、人工知能と人間社会のあり方についての議論が行なわれていますが、本懇談会では、これらの議論も参考にしながら、より一般化した形で社会にメッセージを送ることを期待します。

【人工知能技術とのかかわり】

機械翻訳システム、各種エキスパートシステム、呼情報からのマーケット分析、サービス連携のための健康情報共有プラットフォームなど、人工知能技術の社会応用についての研究開発を、企業研究所(KDDI 研究所)および大学(東北大学・情報科学研究科/医工学研究科)で実施してきました。この懇談会ではアカデミアの委員が多いことから、企業視点でのコメントができればと思っています。

【議論の進め方に関するコメント】

- (1) 議論のポイントは、時間的スケールを考慮する必要があると思います。人工知能技術が到達できるレベルによって、人工知能技術を利用する産業が考慮しなければならない危険は異なりますので、時間的にいつと予測するのは難しいにしても、技術発展のレベルに応じた危険性の議論を行うべきかと思います。
- (2) データや知識を共有することが可能となり、情報共有による危険性は現在でも健在化しています。爆弾の作り方などの情報が、素人もテロリストも得やすくなっている、という現状は、データや知識の拡散の一形態だと思いますので、これらも検討すべきかと思います。
- (3) 人工知能技術自体は中立的であっても、テロリストの知識を集積した知識ベースは社会悪となります。これは、「物理学者が社会的責任を考えずに研究した結果、原子爆弾を作ってしまった」という古典的な問題に通じるところがあります。このあたりの議論の深め方は委員の方たちとの議論で掘り下げ方の方向が決まればよいと思います。
- (4) 検討資料の選択については、Twitter とかで断片的に人工知能の危険性を述べているような資料は、何について述べているのか、背景となっている前提条件は何か、など、解釈の枠組みが与えられていないので、排除して議論するのが良いと思います。
- (5) 2015年1月に、イーロン・マスク、ビル・ゲイツ、スティーブン・ホーキングらが、他の学者や研究者と共に、人工知能を扱う産業の安全基準に関する公開質問状を書いたとされていますが、この公開質問状を素材に公開質問状の中で示唆されている危険を、応用事例を具体的に考えながら議論するというやり方が良いかもしれません。

【議論可能な検討領域】

どの検討領域でも、人工知能技術を開発する視点から議論に参加できると思います。他の委員とのバランスで担当領域を決めて頂いて結構です。

以上